

# 論文合格講座 オリジナルテキスト・教材

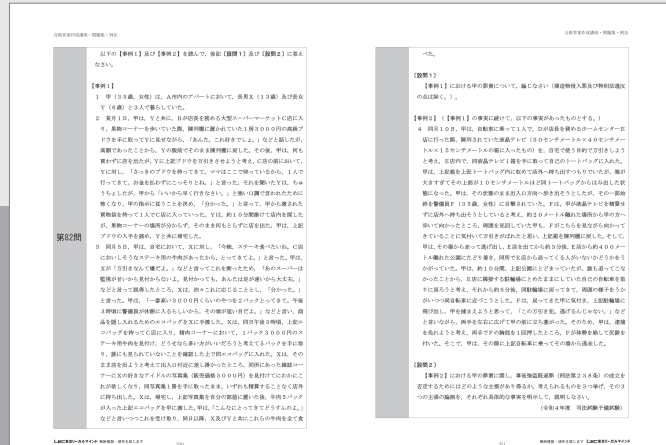
フルカラーで  
リニューアル!

## 答案例×コアノート リンク学習

2ツツールを使いこなして、短期間で実践力を養成する!

## 『コアノート』掲載の知識で 予備試験論文答案が書ける

左側の『問』から右側の『解説』を自力で導く訓練を重ねることで、論文答案を作成するうえで必要な知識を着実に修得することができます。



### POINT 1 「問題集」には厳選された良問を収録

事案分析能力、論点抽出能力を高める  
問題集には、旧司法試験、司法試験予備試験、法科大学院入試の過去問、LECオリジナル問題の中から、厳選された良問を収録しました。問題演習を繰り返すことにより、事案分析能力、論点抽出能力を高めることができます。

### 予備試験 論文過去問 全問収録

# リンク

#### 通し番号

答案例に掲載の番号とリンク。教材間のリンク学習を効率的に行える工夫を施しています。

#### 重要度

コア知識の中でも優先的に覚えるべき事項を★で表しています。

| 問  |   | 解説   |  |
|----|---|--|--|
| 75 | ★ | 強盗罪(236 1)における「暴行・脅迫」の意義   | 財産の強取に向けられた相手方の反抗を抑圧する程度の強度の暴行・脅迫<br>(最狭義の暴行, 最判昭 23.11.18)  |
| 76 | ★ | 暴行・脅迫が相手方の反抗を抑圧するに足る程度のものであるか否かは、いかなる基準で判断すべきか   | 客観説(判例, 通説)<br>暴行・脅迫自体の客観的性質により、一般人を標準に判断する<br>※なお、客観的に反抗を抑圧するに足る程度の暴行・脅迫を加えた以上は、相手方が現実的に反抗を抑圧されたかどうかを問わず、実行の着手が認められる  |
| 77 | ★ | 強盗罪における「強取」の意義   | ①暴行・脅迫により、②相手方の反抗を抑圧し、③その意図によらずに財物を自己又は第三者の占有に移すこと<br>(=暴行・脅迫から財物解取までの間(①→③)に因果関係があることが必要)   |
| 78 | ★ | 「強取した」といえるためには、被害者が実際に反抗を抑圧された状態で財物の解取がなされることを要するか(例:客観的には反抗を抑圧する程度の暴行・脅迫が加えられたが、被害者は単に畏怖したにすぎず財物を任意に交付した場合において、強盗既遂罪の成立を認める(不要説)) | 必要説(通説)<br>強盗は暴行・脅迫を手段とする財産犯一暴行・脅迫と財物解取との間に因果関係がない以上、「強取」とはいえず、未遂にとどまる<br>※なお、判例(最判昭 24.2.8)は、客観的には反抗を抑圧する程度の暴行・脅迫を加えたが、被害者は単に畏怖したにすぎず財物を任意に交付した場合において、強盗既遂罪の成立を認めている(不要説) |
| 79 | ★ | 財物の占有を確保した後に被害者を殺害しようとした場合の処理(例:被害者から奪い取った金銭を奪取した後に、被害者を殺害しようとした場合)  | 最決昭和 61.11.18<br>「犯人による準強盗射行は、被害者を殺害して他人に対する本件奪取行為の遂行を阻害し、被害者を殺害しようとする目的を達成しようとするものである」として、被害者から奪取した金銭を奪取した後に、被害者を殺害しようとした場合、被害者の死を殺害行為の結果として認めるべきである。……(以下略)              |

受験生が知っておくべき重要判例を掲載。セブンサミットの索引から該当判例の詳細を確認できます。

### POINT 2 コアノートの知識で答案が書ける!

コアノートで学んだ知識を答案でどのように使いこなすかを学んでいます。扱う問題の答案は、コアノート掲載の知識でしっかり対応が可能です。また、どの部分がコアノートに掲載の知識かが明確になっているため、コアノートとのクロス学習で効率的な学習が行えます。

### POINT 3 答案例は全問題フルカラーでリニューアル

色分けを施すことで、答案がどのような構成で出来上がっているかが一目で把握することが可能です。

### POINT 4 実践的な解答例を見開きで一覧できる!

メリハリのある答案の書き方を学ぶ  
限られた試験時間内に、出題の意図を読み取り、合格に必要な十分な答案を書くためには、各論点の重要度に応じてメリハリをつけた論述をすることが大切です。そこで、全問題について、メリハリを意識した実践的な解答例を付しました。また、各論点への言及率を一覧して比較することができるよう、解答例は見開きで掲載する工夫をしています。

